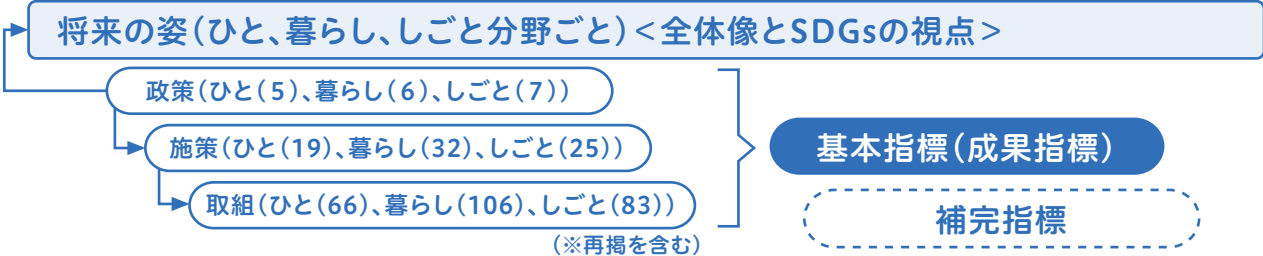


### 3 政策分野別の主要施策の体系

本計画は、目指す将来の姿から、その実現のための県が取り組む政策、施策や取組の成果を測る指標を一連の体系で構築しており、その体系は以下のとおりです。

#### ●政策分野別の体系概要



#### ●指標について

県の施策は、将来の姿の実現に向けた課題解決を目指して取り組むものであり、総合計画に掲げる指標は県の取組の成果を表すものです。

指標について以下のとおり区分します。

- 基本指標(成果指標)** : 施策によって、課題解決をどれだけ達成したかの成果を測る指標
- 補完指標** : 課題解決の達成状況を直接的に測る指標ではないが、課題や取組の現状分析に資する指標

#### ●目標値設定の考え方について

目標値の設定については、目指す将来の姿の実現に向け、**全国との比較、国で定める目標値との整合や過年度実績、将来予測**などを踏まえ、それぞれの指標において設定しています。

#### ●政策分野別の主要施策の体系

分野	政策	施策
ひと	全国に誇れる健康長寿県へ	若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防 など4施策
	結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり	出会い・結婚・妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実 など3施策
	「福島ならではの」教育の充実	「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 など6施策
	誰もがいきいきと暮らせる県づくり	多様な人々が共に生きる社会の形成 など4施策
	福島への新しい人の流れづくり	ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 など2施策
暮らし	東日本大震災・原子力災害からの復興・再生	複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生 など8施策
	災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり	災害に強い県土の形成 など7施策
	安心の医療・介護・福祉提供体制の整備	質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策
	環境と調和・共生する県づくり	豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策
	過疎・中山間地域の持続的な発展	過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策
	ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり	にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策
	地域産業の持続的発展	地域の企業が主役となる、しなやかで力強い地域産業の育成・支援 など3施策
しごと	福島イノベーション・コースト構想の推進	福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・振興 など4施策
	もうかる農林水産業の実現	農林水産業の多様な担い手の確保・育成 など5施策
	再生可能エネルギー先駆けの地の実現	再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と利用促進 など3施策
	魅力を最大限いかした観光・交流の促進	ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信による誘客の拡大 など4施策
	福島の産業を支える人材の確保・育成	県内経済を支える人材の確保・育成 など3施策
	地域を結ぶ社会基盤の整備促進	基盤となる道路ネットワークの整備 など3施策

ひと分野



①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生 ⑦エネルギー ⑧経済成長と雇用  
⑬気候変動 ⑭海洋資源 ⑮陸上資源 ⑯平和 ⑰パートナーシップ

将来の姿		主な課題
全体像	SDGsの視点	
<p>誰もが生涯を通じて健康で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている</p> <p>(県民健康調査や、被災者の状況に応じた支援などにより、県民の健康の維持、増進及び不安解消が図られている)</p>	<p>③若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボリックシンドローム該当者の割合が多い(全国ワースト4位(R元データ))</li> <li>・肥満傾向の子どもやむし歯の子どもが多い</li> <li>・県民の健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要</li> <li>・東日本大震災・原子力災害の被災者の健康増進や健康不安への解消の取組継続が必要</li> </ul>
<p>結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境が整っている</p>	<p>③安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている</p> <p>⑤地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未婚率や平均初婚年齢の上昇などにより出生数や合計特殊出生率が減少傾向</li> <li>・提供している出会いの機会の周知を進め、交際・成婚に向けた後押しが必要</li> <li>・分娩取扱施設が減少しているなど周産期医療体制は厳しい状況であり、産婦人科医を安定的に確保して、安心して出産できる環境づくりが必要</li> <li>・男性の育児休業取得推進等、社会全体で子育てを支える仕組みづくりが必要</li> </ul>
<p>子どもたちが多様な個性をいかしながら、健やかに育つ教育環境と安全・安心な居場所が確保されている</p>	<p>④知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている</p> <p>④震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習調査において、算数・数学、英語が全国平均を下回っている</li> <li>・震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多い</li> <li>・教職員の長時間勤務が多い</li> <li>・本県の子どもたちの体力(県平均)が全国平均を下回っている</li> <li>・復興の過程で生まれた課題そのものを学びとする特色ある教育など、福島ならではの教育を推進する必要</li> </ul>
<p>援助を必要としている人それぞれの状況に応じた相談・支援体制が充実し、一人一人が個人として尊重されている</p>	<p>①誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを享受できる環境が整っている</p> <p>⑤あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている</p> <p>⑩年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている</p> <p>⑯安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの考えに基づく取組の更なる推進が必要</li> <li>・虐待やDVの増加の懸念</li> <li>・男女共同参画の更なる推進が必要</li> <li>・若年層の自殺率が高止まりするなど、心の健康の問題を抱える方が多い</li> </ul>
<p>本県の魅力や情報の発信により、福島とつながりを持つ人々が増加し、福島への新たな人の流れが増えている</p>	<p>⑪本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものになっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県と関わりを持つ人の拡大を図る必要</li> <li>・「収入・仕事の確保」、「生活環境」や「住居」等の情報発信や支援の充実</li> <li>・ふくしまを応援してくれる方々との連携強化</li> <li>・震災以降に新設された各種拠点の活用</li> </ul>

## 政策 - 施策

## 基本指標(成果指標)

### 全国に誇れる健康長寿県へ

- 1 若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防
- 2 食、運動、社会参加による健康づくり
- 3 高齢者の介護予防の強化
- 4 東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり

### ●健康寿命

- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合(特定健康診査受診者)
- がん検診受診率
- がんの年齢調整死亡率(全がん・男女計・75歳未満・人口10万対)
- 80歳で自分の歯を20歯以上有する者の割合及び6歳・12歳でむし歯のない者の割合など
- 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率
- 肥満傾向児出現率の全国平均との比較値など
- 高齢者の通いの場への参加率
- 被災自治体の特定保健指導実施率

### 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

- 1 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実
- 2 安心して子育てできる環境づくり
- 3 社会全体で子育てを支える仕組みづくり

### ●福島県で子育てを行いたいと回答した県民の割合(意識調査)

- 婚姻数
- 合計特殊出生率
- 周産期死亡率
- 産科・婦人科医師数(人口10万対)
- 小児科医師数(人口10万対)
- 保育所入所希望者に対する待機児童数の割合
- 男性の育児休業の取得率(民間(事業所規模30人以上)及び福島県(知事部局))

### 「福島ならではの」教育の充実

- 1 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成
- 2 学校組織の活性化の推進
- 3 多様性を重視した教育の推進
- 4 福島に誇りを持つことができる教育の推進
- 5 人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり
- 6 安心して学べる環境づくり

### ●地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)

- 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値など
- 時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合
- 不登校の児童生徒数(小・中学校及び高校)
- 震災学習の実施率
- 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値など
- 放課後児童クラブの申込児童に対する待機児童数の割合

### 誰もがいきいきと暮らせる県づくり

- 1 多様な人々が共に生きる社会の形成
- 2 人権侵害等の防止対策の強化
- 3 男女共同参画社会の実現
- 4 援助を必要とする人を支え、安心、やさしさを実感できる社会の実現

### ●日頃、人と人の支え合いや絆を実感していると回答した県民の割合(意識調査)

- 「福島県は外国人にとって暮らしやすい」と回答した外国人住民の割合(意識調査)
- 「多様性を理解した社会づくりが進んでいる」と回答した県民の割合(意識調査)
- 市町村地域福祉計画策定率
- 県の審議会等における委員の男女比率
- 民営事業所の管理職における女性の割合(係長相当職以上)
- 県(知事部局)の管理職における女性職員の割合(副課長相当職以上)
- 地域において、女性の社会参加が進んでいると回答した県民の割合(意識調査)
- 自殺死亡率(人口10万対)、自殺者数

### 福島への新しい人の流れづくり

- 1 ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大
- 2 移住・定住の推進

### ●人口の社会増減

- 移住を見据えた関係人口創出数
- ふくしまファンクラブの会員数
- 移住世帯数
- 移住ポータルサイトへのアクセス数(ページビュー)
- 都内の移住相談窓口における相談件数
- 移住コーディネーターの活動件数

暮らし分野



- ①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生 ⑦エネルギー ⑧経済成長と雇用  
⑬気候変動 ⑭海洋資源 ⑮陸上資源 ⑯平和 ⑰パートナーシップ

将来の姿		主な課題
全体像	SDGsの視点	
<p>避難地域において、医療、教育、交通などの生活環境の整備が進んでいる</p> <p>放射線や放射能に関する正しい知識が普及し、風評払拭が進んでいる</p>	<p>⑨県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる</p> <p>⑪避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまだ約3万5千人(令和3(2021)年8月現在)の方が避難をされており、引き続き、生活再建、事業再開支援、避難先での支援、帰還支援など、避難の長期化に伴い個別化・複雑化する課題に対する取組が必要</li> <li>・帰還に向けた生活環境の整備などハード・ソフト両面の取組が必要</li> <li>・風評払拭と風化防止に向けた効果的な対策や情報発信が必要</li> <li>・廃炉に向けて、国・東京電力の取組を監視</li> </ul>
<p>災害に対するハード・ソフト両面からの備えが進み、災害に強い地域づくりが進んでいる</p> <p>犯罪や人権侵害への対策が十分とられ、防犯・防火活動や交通安全活動が活発に行われる安全と安心が守られた地域社会となっている</p>	<p>⑬災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる</p> <p>⑬防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頻発する大規模な自然災害に対して、適切に組み合わせたハード・ソフト両方の対策が必要</li> <li>・自己の避難行動の検討や避難行動要支援者を支援する体制の構築など防災意識の向上が必要</li> <li>・地域における自主的な防犯・防火体制の強化が必要</li> <li>・食の安全、生活衛生の向上が必要</li> <li>・ライフラインの維持や強化が必要</li> </ul>
<p>安全・安心の医療提供体制が確保され、介護・福祉サービスが充実している</p>	<p>③安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している</p> <p>③高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している</p> <p>③各種感染症に迅速かつ的確に対応できる体制が整っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な医師の確保及び医師の地域偏在の解消が課題</li> <li>・高齢者介護の体制整備や介護人材の更なる確保が必要</li> <li>・感染防止対策と安定的な医療提供体制の確保</li> </ul>
<p>脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取組が進み、生物多様性や美しい自然環境が保全されている</p>	<p>⑥猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている</p> <p>⑫ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している</p> <p>⑬地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる</p> <p>⑮豊かな自然環境が保全されている</p> <p>⑮希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化や海洋プラスチックごみ問題等の顕在化により早急な対応が必要</li> <li>・廃棄物の排出抑制や再資源化など環境負荷を軽減するライフスタイルの推進が必要</li> <li>・猪苗代湖や尾瀬を始めとした豊かな自然環境の保護・継承</li> <li>・希少な動植物等の保護とともにイノシシ等の被害防止が必要</li> </ul>
<p>人口減少にあっても地域資源を活用した取組により過疎・中山間地域も持続的に発展している</p>	<p>⑪過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化の進行により、日常生活に必要なサービスの維持が困難になるおそれ</li> <li>・過疎・中山間地域においても働く場と収入を確保する必要</li> <li>・集落を活性化する取組やリーダーとなる人材の確保・育成</li> </ul>
<p>中心市街地の活性化、文化・芸術・スポーツ活動の振興や住民役のまちづくりなど、暮らしの豊かさを実感できる地域づくりが進んでいる</p>	<p>④生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている</p> <p>⑪各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる</p> <p>⑰住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民役のまちづくりが行われている</p> <p>⑰市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の空洞化、空き店舗・空き家増加</li> <li>・小規模自治体への手厚い支援</li> <li>・人口減少が見込まれる中、魅力ある地域づくりのため住民役のまちづくりを推進する必要</li> <li>・NPO法人と多様な主体とのパートナーシップの確立</li> <li>・豊かな地域社会を育てていくために、県民の文化活動やスポーツ活動を促進するための支援の充実が必要</li> </ul>



## 政策 - 施策

## 基本指標(成果指標)

<p><b>東日本大震災・原子力災害からの復興・再生</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生</li> <li>② 放射線の不安を解消し、安心して暮らせる取組の推進</li> <li>③ 被災者・避難者が安心して生活再建できる環境づくり</li> <li>④ 中間貯蔵施設事業の推進と安全確保</li> <li>⑤ 被災者・避難者の事業再開支援</li> <li>⑥ 原子力損害賠償の完全実施と円滑な賠償請求に対する支援の実施</li> <li>⑦ 原子力防災体制の充実と原子力発電所周辺地域の安全確保</li> <li>⑧ 風評・風化対策の強化</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難解除区域の居住人口 ● 避難者数 ● 避難指示区域の面積 ● 本県の震災・原発事故からの復興・再生が進んでいると回答した県民の割合(意識調査)</li> <li>● ふくしま復興再生道路8路線29工区の整備完了率 ● 双葉郡の商工会会員事業所の事業再開状況など</li> <li>● 営農が可能な面積のうち営農再開した面積の割合 ● 沿岸漁業生産額</li> <li>● 日頃、放射線の影響が気になると回答した県民の割合(意識調査)</li> <li>● 県産農産物価格の回復状況 ● 観光客入込数など</li> </ul>
<p><b>災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 災害に強い県土の形成</li> <li>② 地域防災力の強化と充実</li> <li>③ 危機管理体制の強化</li> <li>④ 防犯対策、防火対策の充実、交通安全対策の推進</li> <li>⑤ 消費生活・食の安全・安心の確保</li> <li>⑥ 生活衛生の確保による、快適な生活環境づくり</li> <li>⑦ ライフラインの維持管理の強化による安心・快適な生活環境の構築</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 土砂災害から保全される人家戸数 ● 犯罪発生件数(刑法犯認知件数)</li> <li>● 過去の水害を踏まえた治水対策により浸水被害が解消する家屋数など</li> <li>● 自主防災組織活動カバレッジ率 ● 本県における防災士認証登録者数 ● 災害時受援計画の策定市町村数など</li> <li>● 交通事故死者数 ● 消防団員数の条例定数に対する充足率など</li> <li>● ふくしまHACCPの導入状況など</li> <li>● 早期に対策を講ずべき橋梁・トンネルの修繕措置率など</li> </ul>
<p><b>安心の医療、介護・福祉提供体制の整備</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 質が高く切れ目のない医療提供体制の構築</li> <li>② 医療、介護・福祉、地域住民が互いに連携し地域ぐるみで支える体制づくり</li> <li>③ 高齢者、障がい者が安心して暮らせる介護・福祉提供体制の整備</li> <li>④ 医療、介護・福祉の人材確保</li> <li>⑤ 感染症予防の体制強化</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療施設従事医師数 ● 就業看護職員数 ● 介護職員数</li> <li>● がんの年齢調整死亡率(全がん・男女計・75歳未満・人口10万対)(再掲)など</li> <li>● 認知症サポーター数 ● 市町村地域福祉計画策定率(再掲)</li> <li>● 認定看護師(感染管理)数 ● 結核罹患率(人口10万対)</li> </ul>
<p><b>環境と調和・共生する県づくり</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 豊かな自然や美しい景観の保護・保全</li> <li>② 暮らしにおける地球温暖化対策の推進</li> <li>③ 環境にやさしい循環型社会づくり</li> <li>④ 野生動植物との共生</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合(意識調査)</li> <li>● 自然公園の利用者数 ● 猪苗代湖のCOD値</li> <li>● 温室効果ガス排出量(2013年度比)</li> <li>● 一般廃棄物の排出量(1人1日当たり) ● 一般廃棄物のリサイクル率 ● 産業廃棄物の排出量 ● 産業廃棄物の再生利用率</li> <li>● 野生鳥獣による農作物の被害額</li> </ul>
<p><b>過疎・中山間地域の持続的な発展</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成</li> <li>② 過疎・中山間地域のしごとの確保</li> <li>③ 過疎・中山間地域の暮らしの基盤整備</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合(意識調査)</li> <li>● 地域おこし協力隊定着率 ● 新たに大学生と活性化に取り組む集落数など</li> <li>● 過疎・中山間地域における観光入込数など</li> <li>● すれ違い困難箇所解消率(日常的に通行に使用する21箇所) ● 基幹集落を中心とした集落ネットワーク圏の形成数</li> </ul>
<p><b>ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① にぎわいと魅力あるまちづくりの推進</li> <li>② 住民が主役となる地域づくり</li> <li>③ 効果的・効率的な行政の推進</li> <li>④ 生涯の学び、文化・芸術に親しむ環境づくり</li> <li>⑤ ふくしまのスポーツの推進</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(鑑賞を含む)(意識調査)</li> <li>● 市街地内の都市計画道路(幹線道路)の整備延長 ● 来街者による賑わいが維持できていると回答した商店街の割合</li> <li>● NPOやボランティアと県内自治体等との協働事業件数 ● 地域創生総合支援事業(サポート事業)のうち「一般枠」の採択件数</li> <li>● 県立美術館・県立博物館・文化財センター白河館の入館者数 ● 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人当たり)</li> <li>● 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率(再掲)など</li> </ul>

しごと分野



①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生 ⑦エネルギー ⑧経済成長と雇用  
⑬気候変動 ⑭海洋資源 ⑮陸上資源 ⑯平和 ⑰パートナーシップ

将来の姿		主な課題
全体像	SDGsの視点	
中小企業を中心に県内の地域産業が成長・発展している	⑧本県経済の中核を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元中小企業の技術力・経営力等の強化等</li> <li>・企業誘致の推進</li> <li>・AI・IoT等先端技術の活用などによる技術力や商品開発力の向上</li> <li>・出願・取得した知的財産権の活用が不十分</li> </ul>
福島イノベーション・コースト構想の進展により、地域産業の活性化と新産業の集積・育成が進み、構想を担う人材の確保・育成も進んでいる	⑧福島イノベーション・コースト構想の進展などにより地域外からの人材が還流・定着している ⑨福島イノベーション・コースト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の集積やサプライチェーンの形成が十分ではなく、重点分野を中心に、域外からの企業や人材の呼び込みも通じた更なる取組が必要</li> <li>・地元企業の事業再開、経営力・技術力向上など新たな事業展開や取引の拡大を促進する必要</li> <li>・帰還者のみならず、首都圏等からの人材確保と定着に向けた取組が必要</li> <li>・構想の取組による経済効果の県全体への波及</li> </ul>
農林水産業が他産業並の所得を安定的に確保している	②産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している ⑧農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している ⑫GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている ⑭水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の販売価格が震災前の水準に回復していない</li> <li>・農林水産業従事者の担い手の確保・育成</li> <li>・農林水産物の産地間競争の激化へ対応し、県産品が消費者等から選ばれるよう、その価値を高めていく必要</li> <li>・生産基盤の強化や生産性の向上</li> <li>・農林水産業・農山漁村が持つ、食料の供給や県土の保全、水源の涵養(かんよう)、安らぎをもたらす景観などの重要性についての理解促進</li> </ul>
再生可能エネルギー等の利活用や、関連産業の育成・集積が進んでいる	⑦再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている ⑦水素エネルギーの社会実証が進み国内外の最先端モデルとなっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーの更なる導入拡大</li> <li>・環境に配慮しながらの再エネの地産地消推進</li> <li>・水素社会実証地域モデルの形成</li> <li>・関連産業の育成・集積に向けて、開発された技術の実用化・事業化や人材の確保・育成の加速</li> </ul>
県内の観光地に国内外から多くの観光客が訪れている	⑧県内観光地の魅力が高まり、インバウンドを含めた観光や教育旅行など地域を訪れる交流人口等が増加している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客入込数が震災前の水準に回復していない</li> <li>・ホープツーリズムなど特色あるコンテンツの磨き上げ</li> <li>・外国人観光客の更なる誘客</li> <li>・ワーケーションやマイクロツーリズムの推進</li> </ul>
地域の産業を支える人材が確保・育成されている	⑧若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業における人材不足が顕著</li> <li>・業種間や地域間のミスマッチによる人材不足</li> <li>・若者等の県内還流・定着の推進</li> <li>・高齢者や女性など多様な人材が働きやすい環境づくり</li> </ul>
利便性が高くバランスの取れた交流・物流網や情報網が整備されている	⑨利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる ⑨福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として地域経済の活性化に寄与している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興の基盤となる道路整備の計画的な事業執行が課題</li> <li>・福島空港の利用促進、利用者数増加</li> <li>・小名浜港・相馬港の取扱貨物量増加に向けた施設整備や物流ネットワークの構築などが課題</li> <li>・地理的に条件不利な地域において携帯電話等を利用可能とする必要</li> </ul>

## 政策 - 施策

## 基本指標(成果指標)

<b>地域産業の持続的発展</b> ①地域の企業が主役となる、しなやかで力強い地域産業の育成・支援 ②地域の企業における技術力・開発力の強化に向けた支援 ③ベンチャーの創出、起業の促進に向けた支援の充実	●製造品出荷額等 ●県産品輸出額 ●工場立地件数 ●医療機器生産金額 ●事業承継計画策定件数など ●特許出願件数 ●開業率
<b>福島イノベーション・コースト構想の推進</b> ①福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・振興 ②あらゆるチャレンジが可能な地域の実現に向けた取組の推進 ③地域の企業が主役となる取組の推進 ④福島イノベーション・コースト構想を支える人材育成の推進	●浜通り地域等の域内総生産(GDP)の伸び率(平成22年度対比) ●福島イノベーション・コースト構想の重点分野における事業化件数 ●浜通り地域等の工場立地件数など ●浜通り地域等での起業による事業化件数 ●廃炉関連産業への参入支援による成約件数 ●人材育成事業の対象学科(工業学科・農林水産業学科・商業学科)の新規高卒者の県内就職率など
<b>もうかる農林水産業の実現</b> ①農林水産業の多様な担い手の確保・育成 ②生産基盤の確保と整備の推進 ③需要を創出する流通・販路戦略の実践 ④戦略的な生産活動の展開 ⑤活力と魅力ある農山漁村の創生	●農業産出額 ●林業産出額 ●沿岸漁業生産額(再掲) ●県産農産物価格の回復状況(再掲) ●新規就農者数 ●ほ場整備率 ●第三者認証GAP等を取得した経営体数 ●県産農産物の輸出額(再掲) ●スマート農業技術等導入経営体数(再掲) ●野生鳥獣による農作物の被害額(再掲) ●自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合(意識調査)(再掲)
<b>再生可能エネルギー先駆けの地の実現</b> ①再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と利用促進 ②再生可能エネルギー・水素関連産業の育成・集積 ③省エネルギー等の推進	●再生可能エネルギー導入量 ●再生可能エネルギー・水素関連産業の成約件数 ●再生可能エネルギー・水素関連研究実施件数 ●再生可能エネルギー・水素関連産業の工場立地件数
<b>魅力を最大限いかした観光・交流の促進</b> ①ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信による誘客の拡大 ②インバウンド促進に向けた観光の強化 ③多様なニーズに対応する観光地・受入環境づくりの推進 ④国際交流の推進	●観光客入込数(再掲) ●県内宿泊者数 ●観光消費額(観光目的の宿泊者) ●浜通りの観光客入込数 ●福島県教育旅行学校数 ●外国人宿泊者数(再掲) ●MICE(国際的な会議等)件数
<b>福島の産業を支える人材の確保・育成</b> ①県内経済を支える人材の確保・育成 ②誰もが安心して働ける雇用環境の整備 ③女性が活躍できる社会の実現	●安定的な雇用者数(雇用保険の被保険者数) ●新規大学等卒業者の県内就職率(再掲) ●新規高卒者の県内就職率 ●離職者等再就職訓練修了者の就職率 ●技能検定合格者数 ●福島県次世代育成支援企業認証数
<b>地域を結ぶ社会基盤の整備促進</b> ①基盤となる道路ネットワークの整備 ②港湾の整備促進や福島空港の利活用促進による国際競争力を持った物流拠点等の形成 ③情報基盤の充実による住みやすい環境づくり	●七つの地域の主要都市間の平均所要時間 ●30分以内にインターチェンジにアクセスできる市町村数 ●福島空港利用者数 ●福島空港定期路線数 ●小名浜港・相馬港の年間総貨物取扱量及び年間コンテナ貨物取扱量 ●携帯電話人口カバー率



### コラム③ 知事による総合計画の特別授業を開催しました

次世代を担う子どもたちに新しい総合計画を紹介するため、内堀知事による特別授業を行いました。

日 時：令和3年12月

参加者：県立会津学鳳中学校3年生の皆さん

知事は、福島県の課題には東日本大震災からの復興・再生や地方創生（人口減少対策）、自然災害や新型コロナウイルス感染症などがあることを説明しました。

課題解決のための対応策や、基本目標を「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる ふくしまを共に創り、つなぐ」とした背景、目標の達成度合いを測る「指標」を設定した理由を解説しながら、県の総合計画を考える時と同じように、自分の将来を考える時にも目標を明確に定め、目標達成に向かってひとつひとつ取り組んでいくことの大切さを伝えました。



生徒の皆さんからは、「福島県の自然豊かなところが好き」「歴史が多くあふれている」といった福島県の魅力や、「高齢化が進んでいる町の活気を取り戻したい」「福島県の魅力を発信して、他県や海外との交流が活発になって欲しい」「理解を深めて偏見のない県にしたい」といったそれぞれが思う福島県の将来の姿について意見発表がありました。

また、「あなたの総合計画」と題し、目標を尋ねられた際には、「福島に残って、福島を支えられる人になるように勉強を頑張りたい」「観光産業を盛り上げるために、海洋系の学校に進学したい」「薬剤師になって、新型コロナウイルス感染症のような未知の病気から日本や世界を救える人になりたい」といった夢や目標を教えてくださいました。

授業の最後には、会津の伝統工芸品である起きあがり小法師と赤べこを取り上げ、「起きあがり小法師のように、転んでも諦めずに立ち上がってほしい。でも、時には赤べこのように、気持ちを穏やかにしてほっこりすることも大切。この小法師スピリットと赤べこスピリットを大事にしてほしい。」と内堀知事からメッセージを贈りました。

